



お魚殖やす植樹運動

石狩管内当別町の道民の森にある「お魚殖やす植樹運動記念の森」で6月2日、毎年恒例の植樹が行われ、胆振地区女性連メンバーほか関係者約40人が参加して、ミズナラ、イタヤ、ニレなど合計900本の苗木を植えました。

お魚殖やす植樹運動は、全道漁婦連（道漁協女性連）が『100年かけて100年前の自然の浜を蘇らせよう』を合い言葉に昭和63年から始めたもので、平成10年からは道民の森の中に「お魚殖やす植樹運動記念の森」を確保して毎年、地区女性連が順次参加して植樹を行っています。

CONTENTS 目次

漁業士発アクアカルチャーロード	2
ひやま漁協指導漁業士 松前隆美さん	
平成18年度通常総会	3～7
事業実施計画	
アクア母ちゃん☆頓別漁協女性部長	8
浜のお買い物☆猿払村漁協直売所	8

頑張れば どうにかなる

ひやま漁協指導漁業士の松前隆美さんは、奥尻島でウニ・アワビの夕モ採りやイカ釣り漁のほか、潜水器漁業を営んでいます。

「潜水部会ができたのは昭和61年、今は会員数5人でやっている。当時、投石して漁場造成が行われていたので、ダイバー資格を持つ仲間たちと、その造成漁場を利用してアワビやウニの養殖をやってみようかということで部会が発足した」

造成漁場を使って

アワビは、組合に水揚げされた天然のものを部会費で購入し、部会が管理する造成漁場内に放して給餌を行い、大きくして出荷しています。

「ウニは秋に未利用になっている水深13m以深のキタムラサキウニを管理漁場に移植して餌をやって身入りを早め、一般操業が始まる前に出荷できるようにした」

潜水部会では餌用に造成漁場でコンブの養殖を行っています。

「震災後は全島で移植放流することになり、部会が中心になってダイバー資格を持つほかの組合員と一緒に9月から10月にかけて50mm以上のキタムラサキウニを200万個ほど移植している」

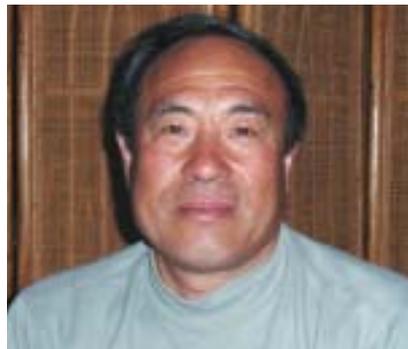
平成5年の北海道南西沖地震の津波で奥尻島のウニ資源は大被害を受

け、養殖事業は中止せざるをえなくなりました。また、入れたばかりの潜水部会のアワビもすべて流され、多額の借金を背負ってしまいました。

「もう、あのときは終わりだ、潜水部会を解散しなければならないと思ったが、なんとか踏ん張って続けてみた。平成8年からウニの養殖事業を再開してナマコ獲りも始めた。何年も無報酬で働いて、イカで生活してたが、生ウニ海水パックの販売が伸び、ナマコの価格にも助けられ、この4~5年でようやく配当金が出るようになった」

生ウニ殺菌海水パック

部会では当初、ミョウバン処理した折り詰めを出荷していましたが、より自然に近い旨さを味わってもらいたいと、平成11年に生ウニの殺菌海水パック「うに〇（まる）」を考案しました。紫外線照射によって殺菌して冷却した海水を使い、パック容器内には水切り用のザルを取り付ける工夫を凝らしました。味が良いうににパックから取り出してすぐにウニ丼ができて便利と、年々人気が高まり、近年では潜水部会だけでは生産が追いつかず、島内のウニ漁業者と共同で生産・販売を行っています。「うに〇」のザル容器は平成15年に改良を加え、現在は公開特許公



ひやま漁協指導漁業士
松前 隆美さん

報にも掲載されているそうです。

潜水部会では平成8年からナマコの採取をはじめましたが、資源の維持を図るため、小さいものは獲らないようにし、自主的に漁獲量を決めて操業しています。

ナマコの資源管理を

「ナマコは潜水のほか、桁引き網、どう突きで漁獲されている。最近の価格の高騰でナマコ着業者も増えた。資源が枯渇しないように今年から管理委員会で操業時間を設け、日の出から午後2時までとした。ほんとは朝6時からにしたかったが押し切られ、曖昧な日の出になった。いいときにたくさん獲りたいと思うのは仕方ない、今まで規制がなかったんだから徐々にと思っている」

例年の6月20日~8月20日までの産卵期の禁漁期間も今年から8月30日までと10日間長くなりました。

「9月になっても産卵しているナマコがいるから禁漁期間も少しずつ延ばせたらと思っている。我慢と地道な努力。頑張ればどうにかなる。漁師をやって40年、ほかの仕事のことは知らないが、苦勞してても漁師は面白いと思うよ」

平成18年度 通常総会開催

本会社の平成18年度通常総会が6月23日、札幌の第二水産ビルで開催されました。

提出議案7項目（1.平成17年度事業報告及び収支決算、2.平成18年度事業計画及び収支予算の設定、3.平成18年度会費の賦課、4.役員報酬、5.借入金の最高限度、6.役員退任慰労金、7.役員補欠選任）について各々審議され、全議案とも満場一致で原案通り承認、可決されました。

役員補欠選任では、岩崎良教常勤専務理事と監事に米田一雄いぶり中央漁協組合長、理事に横田耕一稚

内市長と高田勲日高中央漁協組合長がそれぞれ選任されました。



杉森隆会長あいさつ



平成18年度通常総会の開催にあたり、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には、昨日の全道漁協組合長会議をはじめとして、系統及び関係団体の総会に引き続きご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、道水産林務部から

は、石井水産局長のご臨席をいただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨日の全道漁協組合長会議では、WTO・FTA等水産物輸入対策と燃油価格高騰に伴う漁業経営安定対策の特別決議に加え、水産基本計画の見直しへの政策要望など、本道の水産業が抱える問題点の縮図を示しているものと痛感されましたが、そのなかで、本道の水産業における最も基本的な課題は、水産資源の回復と増大に向けての取組みであることを強く感じました。

その意味において、全道の漁協と沿海市町村を会員としましす公社の果たすべき役割と責務である栽培漁業の推進と漁場環境の保全に向けて、より一層の努力をしていかなければならないことを、あらためて決意をしたところであります。

本日の総会でご審議をいただきます内容については、後ほど説明をいたさせますが、私から、平成17年度事業結果と18年度事業計画の概要について申し上げますが、まず始めに、エリモ以西太平洋海域の漁業者の皆様にとって、待望久しいマツカワの種苗生産と中間育成そして放流拠点としての伊達センターとえりもセンターが開設され、早速、種苗生産に着手し、順調に推移していますことを、ご報告をいたします。

さて、平成17年度事業結果と決算であります。種苗生産事業において、羽幌センターの放流直前のヒラメ種苗にウイルス性の魚病が発生し、国の定めにより放流が出来ない事態が起きました。このため、本年度は、信頼回復も含めて、このようなことが再び起こらぬよう万全の体制で取り組んでおりますが、それ以外のニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産事業と指導事業については、概ね順

調に終了しております。

また、調査設計事業につきましては、当初計画に対して、受託件数で15件、受注額で約1億3千万円と大きく上回る結果となり、最終的には4千5百万円の黒字決算となりました。

振り返りますと、平成17年度は、まさに生き物を扱う事業の難しさを再認識される事業の展開となりましたが、何とか黒字決算に漕ぎ着けられたのは、ひとえに浜の皆様のご理解とご協力、さらには職員一同の努力の賜物であると、心から感謝を申し上げる次第であります。

次に、平成18年度の事業計画と収支予算であります。現在までの事業の実施状況について申し上げますと、ニシンはすでに200万尾の種苗生産と各地への配布及び中間育成を終え、放流を完了しました。マツカワは3月末に採卵を始め、目標の100万尾放流に向け、伊達・えりもの各センターで中間育成の段階に入っており、さらにヒラメ、クロソイ、ウニ、アワビについては、事業計画に基づき生産を進めております。

収支予算につきましては、これまでと同様に、アワビ、ウニ会計の赤字を調査設計事業会計でカバーするという構造に変わりなく、今年度も2千6百万円の赤字予算となっております。引き続き、調査設計事業の受注拡大、経費の節減に最大限の努力を払っていかねばならないものと考えております。

また、社をめぐるとして、新しい公益法人に係わる法律の施行にともない、会計処理の問題を始め、事業のあり方や役員選任まで、今後あらゆる方面での規制と改革が求められ、場合によっては、現在の会社では新しい法律に基づく公益法人として認可されないという重大な局面に立たされることも想定しなければならぬ厳しい環境になるものと思われま

す。私ども、役員一同、浜の皆様の会社に対する負託に応えるべく、今年度も最大限の努力を払って取り組まさせていただきます。会員皆様の一層のご理解とご協力を賜りますことをお願いいたします。

本日の議案は、「平成17年度事業報告及び収支決算」など7件ですが、十分にご審議を賜りますことをお願い申し上げますとともに、ご出席の皆様方のご健勝と大漁をご祈念いたしまして、平成18年度の通常総会のご挨拶いたします。

事業 実施 計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成18年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紹介します。



1 栽培漁業指導事業

(1) 研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に関する知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日的問題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。



研修事業計画

研修課題	実施時期	開催地
「漁業生産技術研修会」 ・「ナマコの栽培漁業と資源管理」 「これからの漁業」 ・マツカワ人工種苗放流マニュアルについてほか	平成18年4月21日 平成18年5月～6月	函館市 5地区
「育てる漁業研究会」	平成19年1月25日	札幌市

(2) 広報事業

ア 機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を、毎月発行、配布します。

イ 北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場49か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめるとともに、過去10年の同旬平均水温を併記して速報するほか、年間の水温、気象をまとめて刊行、配付します。

ウ 報告書の発行

公社が行っているヒラメ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産について、平成17年度事業の経過及び実績をとりまとめて発行、情報交換文献として全国の関係機関に配付します。

(3) 漁業技術研究支援事業

漁村青少年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部（1件50万円以内、実施期間3か年以内）を助成するとともに必要に応じ技術的な協力も行います。

また、地域の漁業振興に係わる取り組みのより一層の活性化を図るため、栽培漁業の推進に関連する新しい取り組みに対しても支援します。

漁業技術研究支援事業計画

研究課題	事業実施団体名
マナマコ天然採苗試験	砂原漁業協同組合青年部
クロソイ海中養殖企業化試験	上ノ国町漁業生産組合青年部
ヒラメ標識放流事業	上磯郡漁業協同組合青年部
合計 3課題	3団体

(4) 技術開発試験調査事業

マナマコ種苗生産の要望に対応し、関係機関の支援を得ながら着底稚仔の大量確保・育成の技術開発試験を行います。

2 日本海 ニシン種苗生産委託事業

道は、日本海地域の漁業振興対策の一環としてニシン資源増大に力を入れることとし、平成8年度から13年度までの6か年を第一期、平成14年度から19年度までの6か年を第二期として事業を推進してきました。

本年度は、石狩管内、留萌管内の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、45mm種苗を200万尾生産し、後志、石狩、留萌、宗谷管内の各地先から放流する計画です。

会社は、道から委託を受け、羽幌センターで45mm種苗を200万尾生産し、うち160万尾を各地区協議会等に中間育成用として配付し、試験用として40万尾を60mmサイズまで中間育成します。

3 栽培漁業推進事業

(1) ヒラメ種苗生産事業

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、ヒラメ30mm種苗296万尾を生産し、そのうち37万7千尾を3か所の民間中間育成施設へ配付します。

残りの258万3千尾は羽幌、瀬棚両センターにおいて放流サイズの80mmまで中間育成し、3か所の民間施設と合わせて220万尾を放流します。

このほか、標識調査用として150mmサイズの種苗4千尾を放流します。

北海道栽培漁業羽幌センター

(110万尾放流体制)

(30mm種苗)	[中間育成]	[放流80mm]
羽幌センター 147万尾	羽幌センター 133万尾	- 100万尾
	民間施設 (羽幌)	14万尾 10万尾

北海道栽培漁業瀬棚センター

(110万尾放流体制)

(30mm種苗)	[中間育成]	[放流80mm]
瀬棚センター 149万尾	瀬棚センター	125.3万尾 - 93万尾
	民間施設 (寿都 知内)	23.7万尾 - 17万尾 16万尾 12万尾 7.7万尾 5万尾

(2) マツカワ種苗生産事業

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、マツカワ30mm種苗125万尾を生産し、そのうち81万尾を北海道栽培漁業伊達センター、44万尾を北海道栽培漁業えりもセンターにおいて放流サイズの80mmまで中間育成し、両センター合わせ100万尾を放流します。

マツカワ種苗生産計画

(30mm種苗)	(中間育成)	(放流80mm)
伊達センター 125万尾	伊達センター	81万尾 — 65万尾
	えりもセンター	44万尾 — 35万尾

マツカワ地区別放流数

(単位：万尾)

区分	協議会	80mm種苗 放流計画
伊達センター	渡島東部海域栽培漁業協議会	5
	噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	20
	噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会	20
	胆振太平洋海域漁業振興協議会	20
えりもセンター	日高管内栽培漁業推進協議会	35
合計		100



4 栽培漁業振興事業 (種苗生産等支援助成事業)

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から下表の内容で、助成を行います。

5 アワビ種苗生産事業

現在育成中の平成17年産種苗と18年に採苗する種苗の育成管理に当たります。供給予定数は平成17年産116万5千個、18年産40万2千個の合計156万7千個であり、平成17年度に比べ14万5千個の増加です。

アワビ種苗供給計画

(単位:千個)

殻長区分	20mm	25mm	30mm	計
17年産		192	973	1,165
18年産	402			402
計	402	192	973	1,567

6 ウニ種苗生産事業

エゾバフンウニは、現在育成中の平成17年産種苗及び平成18年に採苗する種苗の育成管理に当たり、平成17年産5mm種苗272万個と10mm種苗8万個の合計280万個、及び17年産5mm種苗152万個の総計432万個を供給します。この供給数は、平成17年度比58万8千個の減少です。

キタムラサキウニ種苗は平成17年産5mm種苗120万個を供給するとともに、平成19年に供給する80万個の採苗を行い育成管理します。

また、エゾバフンウニ付着期の幼

エゾバフンウニ種苗供給計画

(単位:千個)

殻長区分	5mm	10mm	計
17年産	2,720	80	2,800
18年産	1,520		1,520
計	4,240	80	4,320

生300万粒と、アワビモ6,500枚を供給します。

7 調査設計事業

調査設計事業の実施方針

次の基本的な考え方を、公社の調査設計事業の実施方針とします。

- 1 公社は、全道の漁業協同組合と沿海市町村を会員としている公益法人団体であることから、その基本的なスタンスは、漁業者の視点に立って考えます。
- 2 受託事業については、精度の高い調査と公正な判断による高品質な報告書を作成するとともに、漁業環境の保全と漁業影響を防止するための考え方を提言します。

栽培漁業振興事業実施計画

(単位:千円)

事業主体	対象魚種	事業費	助成金額
寿都町漁業協同組合	クロソイ	2,936	1,463
島牧漁業協同組合	マゾイ	3,836	1,917
	クロソイ		
ひやま漁業協同組合	クロソイ	4,915	2,457
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	クロソイ	4,910	2,455
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	クロソイ	6,900	3,450
いぶり噴火湾漁業協同組合	マナマコ	3,700	1,850
ひだか漁業協同組合	ハタハタ	4,171	2,085
	クロソイ		
新ひだか町栽培漁業推進協議会	ハタハタ	676	337
	クロソイ		
	エゾボラ	558	278
様似町水産振興協議会	ハタハタ		
	エゾボラ	11,720	5,858
えりも町栽培漁業振興協議会	ハタハタ		
	クロソイ	2,500	1,660
十勝管内栽培漁業推進協議会	マツカワ		
大津漁業協同組合	クロソイ	1,330	665
釧路市漁業協同組合	マツカワ	3,091	1,820
	クロソイ		
昆布森漁業協同組合	ニシン	778	389
厚岸漁業協同組合	ニシン	1,000	500
浜中漁業協同組合	ニシン	413	205
根室市	ハナサキガニ	5,490	2,745
根室管内ニシン種苗生産運営委員会	ニシン	24,216	4,900
根室管内栽培漁業推進協議会	マツカワ	1,805	1,203
羅臼漁業協同組合	マガレイ	2,251	1,115
	クロソイ		
宗谷漁業協同組合	マナマコ	2,281	1,140
	ホッカイエビ		
増毛町	ニシン	1,589	794
	クロソイ		
合計	22団体	91,066	39,286

3 社は、事業実施者と漁業者との間にあつて、問題の解決に向けての調整と提言を行います。

平成18年度調査事業受託見込み

平成18年度の調査事業は、次の4点から積算した結果、事業規模見込みを受託件数56件、受託金額654,000千円とします。

- 1 平成13年度から17年度までにおける受託実績の推移と傾向。
- 2 継続事業の受託実績。
- 3 新規受託事業の推移と傾向。
- 4 設計変更に伴う受託金額の増加の実績。

平成18年度 事業執行方針と重点目標

平成18年度の調査事業については、平成17年度以上に厳しい状況にあるものと予想されることから、新たな執行体制の基に、充実した事業展開を図ります。調査部門においては組織体制の見直しと、それに伴う人事配置の検討を行います。また、業務に当っては、管理技術者と担当者の円滑な連絡、執行体制の確立に向けたマネジメント会議、スタッフ制の見直しや整備、拡充を進めます。分室については名称の改称や責任体制の整備により業務の推進に寄与できる体制を整備し、備品機材などの管理を徹底するとともに長期的な機材整備計画を策定します。

1. 管理室業務の拡充と執行体制
 - ・部長職及び専任の事務職員（派遣職員も検討）を配置し、調査部門の予算（実行予算を含む）、労務管理に係わる全ての業務を総括管理し、提案、提言等を行います。
2. 管理職の執行体制
 - ・マネジメントスタッフの円滑な運用のため、スタッフ会議開催等には課題、懸案事項を明確にして協議を行い、迅速な意志決定を図ります。
3. 分室の機能、名称の改称
 - ・分室の名称を改称するとともに、専任の責任者を配置し、公社の調査事業推進の役割を果たす施設とします。
4. スタッフ制の拡充
 - ・調査業務の効率的な実施と精度の向上を図るため、さらにスタッフ制を充実させます。
5. 発注機関及びコンサルタント業者との関係
 - ・随意契約での発注が難しくなるなかで、継続業

務においても調査内容を精査し、項目の削減も含め、調査の必要性、随意契約理由等、新たな提案を行い、連絡報告について確実に実行し、業務の円滑な執行を図ります。

- ・一般競争入札による発注が多くなると考えられ、一般コンサルタントとの協調、協力体制を構築します。
6. 備品、調査機材等の管理運用
 - ・調査機材（公用車を含む）の使用履歴、修理履歴を作成し、シリアルナンバー及び固体識別による管理の徹底で効率的な管理体制を構築し、経費の節減を図ります。
 - ・備品、機材、図書等について長期の整備計画を作成します。

8 クロソイ種苗生産事業

クロソイを対象とした栽培漁業を実施する会員からの要望により30mm種苗を生産し、配付します。平成18年度は、30mm種苗54万7千尾を生産し、要望先へ供給します。

クロソイ種苗の要望先一覧表

要 望 先	尾 数
増 毛 町	10,000
寿 都 町 漁 業 協 同 組 合	92,000
島 牧 漁 業 協 同 組 合	20,000
ひ や ま 漁 業 協 同 組 合	110,000
津 軽 海 峡 地 域 水 産 人 工 種 苗 育 成 供 給 連 絡 協 議 会	70,000
噴 火 湾 渡 島 海 域 漁 業 振 興 対 策 協 議 会	150,000
新 ひ だ か 町 栽 培 漁 業 推 進 協 議 会	5,000
大 津 漁 業 協 同 組 合	10,000
釧 路 市 漁 業 協 同 組 合	15,000
東 しゃ こ た ん 漁 業 協 同 組 合 ク ロ ソ イ 海 中 養 殖 部 会	15,000
室 蘭 漁 業 協 同 組 合	50,000
合 計	547,000

9 ハタハタ種苗生産事業

日高管内栽培漁業推進協議会からの要望を受けて、えりも事業所で30mm種苗を生産し、配布します。本年度は採卵、卵管理を行い、来年度要望先に400万尾規模の種苗を配布し、協議会が、各地先で放流を行います。

アクア母ちゃん

頓別漁協女性部長
高松美津枝さん



朝日が昇れば夕日も沈む

今年の2月に部長になったばかりで、まだ新しいことにまで手が出ません。今は先代の部長たちがしてきたことをなんとか無事にこなしていきたいと思っています。メインの活動は、組合の総会のお弁当作り、ホタテご飯を作って年に3回のイベントへの出店、そして植樹などです。

2年に一度、研修旅行を行っています。去年は2泊3日の行程で小樽へ行ってきました。私個人の希望としては、今後は研修先でほかの女性部と交流していけたらいいなと思っています。

私は嫁いで何年もたないうちに姑の勧めで女性部に入りました。料理や子育てなど先輩たちからたくさんのことを教えていただきました。「こういうときはこうするの。そんなこと気にするんでない」と勇気づけられ、ずいぶんと助けられました。自分の経験上、家庭や生活一般、いろいろな面でプラスになることがたくさんあったので、今の若い人にも子育てしている最中だからこそ、女性部に入り、気軽にいろんなことを相談してほしいと思います。

私のモットーは『朝日が昇れば

夕日も沈む』です。どんなに悩んだって、お金がなくなつて一日は過ぎていきます。「まっ、いいか。くよくよしても始まらない」と日々楽観的に過ごしています。

部長と言っても、自分では小間使いぐらいにしか思ってないんです。女性部の活動は皆さんの協力がなかったら何もできません。皆さんの手となり足となり、私で役に立てることがあれば、できるだけ何でもトライしていきたいと思っています。元気がいいのだけが取り柄ですから。

魚やかにも置いたらいいのにという声もありますが、ホタテにこだわって差別化をはかっています



和泉さん

組合のマスコットキャラクター「ホッターくん」のグッズも売っている。



ホッターくん

日本初のホタテ専門店



浜のお買い物

頓別漁協『F3307直売所』
TEL 01635-6-2130
営業期間 3月末～12月(期間中無休)
ホームページ
<http://www.hotate-bn.net>

国道238号線E枝幸方面から宗谷方面へ。宗谷支庁の中心地である1kmくらい行くと右側のホタテ総合加工場がありその隣に直売所



自腹のお買物はこのソフト貝柱



2個入 350円



うーん とまめまの味♡

そして、ほたてソフト貝柱はもうすぐ商品名を変えてお目見え

その名も

ときめきソフト



塩水たけでポイル加工ホタテの旨みが生きている1粒ずつ真空パック

珍しい品ぞろえ。

横浜の崎陽軒の三ツマイヒトルトの相立鶏が置いてある



ホタテのホタテをふり使った

そのほか

★乾燥ほたて貝柱

M300g	3500円
(25~45粒)	
M500g	5800円
(60~75粒)	

★冷凍ほたて貝柱

L1kg	2650円
M1kg	2400円
S1kg	2300円
特1kg	1890円
(少いからた)	

オホーツクのホタテは4年ものか多いが、頓別村では5年かけて育てているので、大きいのが特徴。

殻付き鮮ホタテ 3kg(13枚前後) なんと1050円! 超お買い得!!

3月末～11月まで 船が休みの時 以外はおいでいる。インターネットでも買えるよ

